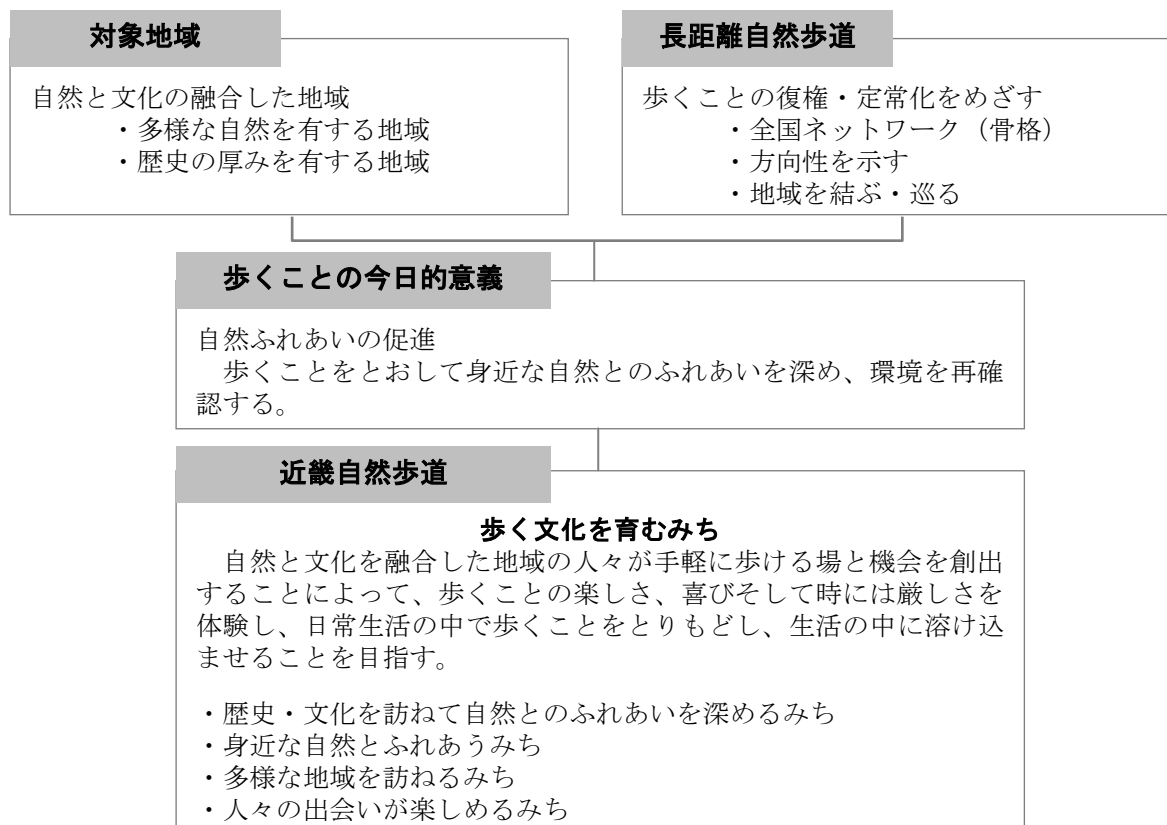


■基本方針の整理

1. 伊勢志摩国立公園の近畿自然歩道のあり方

近畿自然歩道の基本的な考え方



コースの特徴

瀬戸内海から日本海の景観などの多様な自然資源、熊野古道などの旧街道に代表される地域の歴史的・文化的資源等を結ぶ歩道のネットワークを構築している

伊勢志摩国立公園近畿自然歩道コンセプト

「伊勢志摩を歩く240km ～Border to Border～」

伊勢志摩国立公園の端から端まで連続して歩くことができる歩道、点的な理解を超えて総合的に感じ理解することができる歩道、国立公園の基幹的施設としてエコツーリズムなどの新しい利用に対応した歩道を整備する。

2. (整備) 目標

- ① ビジターや地域の人々、老若男女、さまざまな人たちが、歩く人たちの気持ちをもり立て、歩くことの楽しさ、喜び、時には厳しさを体験できる。
- ② 伊勢神宮の宮域林や南伊勢地域の自然林、リアス式の海岸・多島海とそこに息づく海女をはじめとする漁業文化など伊勢志摩国立公園の特徴ある自然や歴史・文化とふれあう。

3. 基本方針

〔利用方針〕

- ・ 自然が豊かな地域において、動植物や景観資源の保全を図りながら、自然とのふれあいを推進する。
- ・ エコツアー等の新たな利用形態と連携を図り、自然とのふれあいの場の確保や機会の提供を行う。
- ・ 日々の散歩や緊急時の避難経路など、地域の利活用に資する歩道を目指す。
- ・ キャンプ場、宿泊施設など関連施設と連携を図った利用を検討する。

〔保全・整備方針〕

- ・ 伊勢志摩国立公園のゲートとなる伊勢神宮から南西端の古和浦まで連続して歩くことのできる歩道を整備する。
- ・ 自然や歴史・文化とのふれあいに資する適切なルートを検討・修正しながら、整備を行う。
- ・ 利用者の安全性を確保し、利用上支障がある施設については再整備を行う。
- ・ 整備に当たっては、災害時の避難等に利用できるように配慮する。

〔維持管理方針〕

- ・ 施設の管理責任は事業執行者が負うものであるが、きめ細やかな管理を行うため、地元（県・市・町・関係機関等）と協力し、維持管理体制の構築に努める。

〔情報発信方針〕

- ・ 近畿自然歩道の魅力が伝わるように、関係機関及び関連施設と連携し、ビジターセンター、広報やホームページ、パンフレット等の様々な手段を通じて、効果的な情報発信に努める。